

ICT東京フォーラム

2019年6月23日

「災害時を考慮したコミュニティメディアの新たな展開」

# 自治体・市民の視点から考える 防災及び災害時の 地域メディアの機能

前三鷹市長 清原 慶子

# 防災、災害対策の対象の多様化

- **大地震**：首都直下、東海・東南海・南海三連動等
- **風水害**：台風、ゲリラ豪雨、降雹、大雪、竜巻等
- **その他**：大規模停電（ブラックアウト）・大規模火災・火山噴火等
- **感染症**：新型インフルエンザ、エボラ出血熱等
- **テロ**：サリン等バイオテロ、サイバーテロ等
- **武力攻撃**：他国からのミサイル攻撃等

⇒法に基づき条例で設置されている**防災会議**で  
審議して『**地域防災計画**』を策定

- **予防対策**（災害発生前に行う対策）
- **応急対策**（災害発生後に行う対策）
  - ・市民の生命を守る（72時間）
  - ・市民の生活を守る（72時間以降）
- **復旧・復興対策**

# 三鷹市のICTまちづくりの歩み

- 1984～1986年：光ファイバー利用のINS実験：**研究者として参加**
- 1980年代～：民間データセンターの集積
- 1996年～：「SOHO CITY みたか」の推進  
：**研究者として提案**
- 2005年：世界テレポート連合から「Intelligent community of the year」を受賞  
：**市長として応募・プレゼン・採択**
- 2007～2009年：  
総務省「ユビキタス コミュニティ推進事業」  
日本初証明書のコンビニ交付開始など  
：**市長として提案・応募・採択**
- 2012～2013年度：総務省「ICT街づくり推進事業」  
ICTをコミュニティ創生に活用した事業の検証と  
横展開に向けた共通プラットフォームの構築  
：**市長として応募・プレゼン・採択**



# 地域メディアの「公共性」について 自治体・市民の視点から考える

地域メディアは、地域に密着した情報基盤として、市民が必要とする災害情報や地域情報等を自治体と連携して提供する公共的な役割を担っている

- ① 災害情報や地域情報の提供・充実の在り方が課題
- ② 災害時・平時に安定的な情報提供を行うために必要となる、ネットワークの安全・信頼性の確保の在り方(災害対策、事故対策、セキュリティ対策)が課題

# 令和元年6月7日確定の 「デジタル時代の新たなIT政策大綱」

## ◆ 社会のデジタル化による課題解決

- 少子高齢化を克服するためには、手続などに時間を取られない、生産性が高く簡素・効率的で豊かな社会の実現が一つの方途。
- 地域のICTインフラ整備を着実に推進

## ◆ 5G環境の整備

- 5Gのサービスを支える基地局や、光ファイバ等の情報インフラ整備
- ⇒ 全都道府県でサービス開始（2年以内）

## ◆ ローカル5G

- 地域ニーズに応じて、様々な主体が柔軟に構築・利用可能な5G
- ⇒ 制度化（令和元年内）

## ◆ 安全・安心なサービス

- 「ネットワーク機器につながるIoT機器」 激増
- ⇒ セキュリティ対策
- ⇒ 機器識別に不可欠な番号の追加的な確保（100億個）

# 三鷹中央防災公園・総合防災センター

平時の利用が災害時に生きる  
⇒災害時は災害時モードに機能転換



# 意思決定支援の災害情報システム

○目的： 災害時における迅速な意思決定を画像等で支援

①各所管課で把握した被害情報、状況を時系列で集約

②収集した被害情報等を整理し、庁内で共有

③災害時には、三鷹駅前と元気創造プラザに設置された高所カメラによる映像による状況把握

④消防団各分団に配備しているスマートフォンからの写真、コメント投稿による火災時等の被災状況の時系列での共有

- ◆ パッケージシステムを活用
- ◆ クラウド型システムの採用
- 堅牢なデータセンターの活用

▶ **タイムマネジメントの確立**



## 基礎自治体（市町村）による 災害関連情報の収集・提供に求められる多元性

- ◆ 少子長寿化の中でメディア利用形態が多様化し、特に高齢者等避難行動要支援者を含む多世代への正確な情報提供が必要
- ◆ 多様化する災害種別に最適な情報収集・提供体制  
地震、風水害、大雪、停電、大規模火災 等
- ◆ 災害関連情報の収集における、迅速性、正確性、多元性の確保
- ◆ 災害関連情報の提供における、迅速性、正確性、多元性の確保
- ◆ ICTや地理空間情報の最適な活用
- ◆ 災害種別、情報の利用目的、フェーズ、それぞれの分類に即して、  
音声情報、映像・画像情報、文字情報、地理空間情報 等  
情報の形態を活かした多元的で最適な収集・提供の在り方を検討することが求められる。

# 市民の視点から、基礎自治体（市町村）による 災害関連情報の収集・提供に求められる多元性

- ◆ 少子長寿化の中でメディア利用形態が多様化し、特に高齢者等避難行動要支援者を含む多世代への正確な情報提供が必要
- ◆ 多様化する災害種別に最適な情報収集・提供体制  
地震、風水害、大雪、停電、大規模火災 等
- ◆ 災害関連情報の収集における、迅速性、正確性、多元性の確保
- ◆ 災害関連情報の提供における、迅速性、正確性、多元性の確保
- ◆ ICTや地理空間情報の最適な活用
- ◆ 災害種別、情報の利用目的、フェーズ、それぞれの分類に即して、  
音声情報、映像・画像情報、文字情報、地理空間情報 等  
情報の形態を活かした多元的で最適な収集・提供の在り方  
を検討することが求められる。

# ケーブルテレビの機能の拡充の可能性

## 1. 日常的な防災情報を含む地域情報の提供

- 地域の総合防災訓練、おやじの会等主催の防災キャンプ等の事例の情報提供
- 地域に適合的な防災に関する情報番組

## 2. 防災無線等による公的な災害情報等の到達力の補完

- 文字放送による防災無線等の内容の即時提供
- 独自端末を利用した音声による防災無線等の情報提供サービス

## 3. 独自端末を利用したラジオ放送の補完

## 4. マイナビカードを活用した個別避難情報の提供

## 5. 地域BWAシステムを活用したサービス

# 自助・共助の拡充の必要性和支援施策

- 市民一人ひとりによる**自助**  
「自分の命は自分で守る【防災の基本】」
- 地域や隣近所による**共助・近助**  
「自分たちの地域は自分たちで守る」
- 市等の防災関係機関による**公助**



# 基礎自治体（市町村）の災害関連情報の収集・提供に求められる課題と地域メディアへの期待

- ◆多様化する災害種別に最適な情報収集・提供体制
- ◆災害関連情報の収集における、迅速性、正確性、多元性の確保
- ◆災害関連情報の提供における、迅速性、正確性、多元性の確保
- ◆ICTや地理空間情報を最適に活用した災害対応力の強化
- ◆災害種別、情報の利用目的、フェーズ、それぞれの分類に即して、音声情報、映像・画像情報、文字情報、地理空間情報等、情報の形態を活かした多元的な収集・提供の在り方が不可欠

実現するためには

- ⇒いずれの自治体でも、正確で信頼できる情報源からの災害関連情報を入手し、それを着実に情報提供できることが可能であるとともに、こうした情報収集及び提供システム開発や維持管理・運用に、高コストとならないような「共通プラットフォーム」の開発が必要
- ⇒ Twitter、SNS等については、そのメリットを活かしつつ、正確性、信頼性を担保する運用の在り方についての検討が有用